

2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

③地域の小中学校との連携の例

神奈川：市教育研究所、小学校、活動団体などによる環境学習モデルプログラムの作成と他地域への波及

秦野市渋沢地区には、里山保全活動を行っている「まほろば里山林を育む会」と、地権者である「渋沢西端共有林管理組合」がある。両会の指導を受けて、地元渋沢小学校ではこの地区の里山を学習林として活用し、年間を通じた環境学習を行なっている。また同小学校では、水辺の生き物学習の場を確保するため、「渋沢ふれあいの里」（秦野市指定の生き物の里第2号）において、自治会・地権者・渋沢小学校で構成する「渋沢ふれあいの里管理運営協議会」を設立し、管理作業の分担等を行い、自然観察会を主とする体験学習を行っている。

渋沢小学校

里山里山を利用した学習の取り組みについて

渋沢ふれあいの里管理運営協議会
秦野市立渋沢小学校長 六本木 康

1 目的

活動や体験を通して身近な自然環境に関心を持たせると共に、豊かな自然と触れ合う中で、自然への畏敬の念や自然を慈しみ大切にしようとする心を育てる。

2 ふれあいの里について

平成6年から地域の協力を得て、「ふれあいの里」として理科・生活科・総合の学習の場として活用、平成16年に市の「生き物の里」の指定を受ける。

- 所在地 秦野市渋沢2、250-2、250番地（学校から徒歩6分）
- 面積 3、255㎡
- 環境状況 ホタルやトンボ、イモリ、ホトケドジョウなど希少な野生の生き物が生息している。
- 学習状況等 各学年自然観察会、4年生生き物調査、PTAホテルの観察会
- 機関紙の発行 毎月1回 配布（全家庭・地権者・自治会）
- 管理運営 渋沢ふれあいの里管理運営協議会（地元自治会・地権者・渋沢小学校）

3 渋沢小学校学習林について

「まほろば里山林を育む会」が整備した7、65haの西端山林を（「渋沢共有地管理組合」の利用許可を得て協定を結び、学習林として利用してはどうかという趣意があり、平成15年より総合学習や生活科の学習の場として活用している。

- 所在地 秦野市渋沢西端山林（学校から徒歩30分）
- 面積 7、65ha
- 環境状況 落葉広葉樹林を主体とする山林、今まで荒らされていなかったことと場所が変化に富んでいるため、植生が豊かで希少な植物の群生も見られる。
- 学習状況 別紙資料のとおり
- 整備・管理 まほろば里山林を育む会・渋沢共有地管理組合

渋沢小学校学習林について

今までの経過

15年5月4日 渋沢小学校学習林の看板設置

5月6日 校内の星の放送で学習林の様子をビデオで紹介する。先生方に場所を伝える。

6月 4年生総合の学習で学習林を訪れる。

※ まほろば里山林を育む会の方たちの協力を得て雑木林の観察をゲームを通して楽しく学ぶ（好きな木みつけ・木肌の違い・昆虫探し・植物の観察など）

・ 6年生源流を調べる。

10月 4年生学習林の観察

・ まほろば里山林のみなさんの協力を得て『ひみつ基地づくり』

16年1月〜2月

・ 4年生国語『環境調査報告書をつくらう』の学習で生き物を調べる。

4月 春の学習林の調査

・ 星の放送で春の学習林の様子をビデオで紹介する。

5月 4年生チームを束めて学習林の観察をする。

（昆虫・植物・木の違いなど）

6月 3年生学習林の観察

・ 4年生学習林の観察



ふれあいの里だより 渋沢小学校 発行 平成16年5月3日

ふれあいの里は、朝陽の陽光を浴びて、植物も昆虫もみんな生き生きと輝いています。季節ごとにシシトフが舞い降りてヒメコノシシトフが、土壌ではヒメコノシシトフが冬を越して成長しています。また、ヒメコノシシトフは、自然の恵みを感じて育ちます。また、ヒメコノシシトフは、自然の恵みを感じて育ちます。また、ヒメコノシシトフは、自然の恵みを感じて育ちます。

オトシシトフの卵のつくりかた

5月の生き物（4/29〜5/8調べ）

種類	場所
オトシシトフ	マダラシシトフ
ヒメコノシシトフ	ヒメコノシシトフ

渋沢小学校 ふれあいの里 マップ

ふれあいの里は、みんなが楽しめる場所です。

- 生き物は自然の恵みを感じて育ちます。
- 自然の恵みを感じて育ちます。
- 自然の恵みを感じて育ちます。